

29年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
入荷動向	国産材	0.0	0.0	10.0
	外材	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
在庫動向	国産材	△ 30.0	△ 20.0	△ 20.0
	外材	△ 37.5	△ 25.0	△ 25.0

・国産ラミナの入荷は4月、5月の横ばいから6月はやや増加に。外材は3カ月連続の減少。

・ラミナの在庫は、国産材及び外材とも3カ月連続で減少。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
国産材	12.5	0.0	0.0
欧州材	12.5	25.0	25.0
その他	50.0	75.0	75.0

・国産材ラミナの入荷価格は、4月は強含みから5月、6月は横ばいに。欧州材及びその他は3カ月連続して強含みで推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・国内製材所は依然忙しく、安価なラミナの生産は増えない。外材は①米国向けベイヒバの販売好調、②ベイヒバ原産地、カナダBC州の天候不順(積雪)により、米ヒバ原木の出材少ない。従って米ヒバラミナの入荷が減少している。ラミナ入荷に対して国産材ヒノキ及び米ヒバの出荷が勝っており、在庫は減少中、在庫水準は極めて低位。

・入荷動向は、スギ・カラマツともに安定している。5月に入ると例年やや減少となるため集荷に注力したい。在庫はスギ・カラマツともに横ばい。

(ラミナ価格動向)

・国産材ラミナは集成材生産を確保するため購入を増やしている。需要が供給を上回る構図となっており、価格は上昇傾向。米ヒバは集材困難、米国向け出荷との価格比較に合い、対日向け価格上昇は鮮明。

・スギ・カラマツともに仕入価格は横ばいである。

29年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
生産動向	国産材	25.0	8.3	16.7
	WW集成管柱	0.0	0.0	25.0
	RW集成平角	0.0	△ 12.5	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	12.5
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	16.7	16.7	16.7
	WW集成管柱	△ 16.7	0.0	33.3
	RW集成平角	△ 12.5	0.0	25.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	12.5
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産は3カ月連続して増加。

・WW集成管柱及米マツ集成平角は4月、5月が横ばい、6月は増加に。RW集成平角は4月は横ばい、5月は減少、6月は再び横ばいに。

・国産材構造用合板の出荷は3カ月連続して増加。WW集成管柱及RW集成平角は4月は減少、5月は横ばい、6月は増加に。米マツ集成平角は4月、5月は横ばい、6月は増加に。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
スギ集成管柱	16.7	16.7	16.7
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	12.5
WW集成管柱	0.0	16.7	50.0
RW集成平角	0.0	12.5	37.5
米マツ集成平角	0.0	12.5	12.5
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	50.0	50.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の出荷価格は3カ月連続で強含み。ヒノキ集成柱、ヒノキ集成土台は3カ月連続して横ばいで推移。カラマツ集成土台は4月、5月は横ばい、6月はやや強含みに。

・WW集成管柱及RW集成平角、米マツ集成平角及び米ヒバ土台は4月の横ばいから、5月、6月は強含みに。

・カラマツ集成平角は4月が弱含み、5月、6月は横ばいに。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・国産材構造用ヒノキ集成材は、年末年始の引き合いが強い状態からはやや落ち着いた。それでも荷動きは好調、全力生産が続く。工場能力の限界により、これ以上生産を増やせず横ばいとする。6月のは工場設備が一部稼働できるためやや増加。

・スギ・カラマツともに、外気温の上昇とともにやや増加となっている。外温も上がってきており接着時間が短くなるなど作業効率が上がっている。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・新工場稼働に伴い増産し、販売増加が必要であることから本音は値上げしたいが、横ばいである。米ヒバ集成材は原料仕入れコストの増から値上げ断行中。その他の集成材も需要堅調で弱含み感はなく、下半期の需要期に向けて若干の強含みと聞く。

・スギ集成間柱は、大手ビルダー及びハウスメーカーの価格が横ばいとなっており、メーカーとしては大変厳しい環境におかれている。カラマツEW土台は、基本的には横ばいであるが、一部で値上げ交渉をしている。

カラマツEW平角は、仕入価格が横ばいであるため、基本的には変動はしていない。